

# 教職指導員としての学生支援活動を振り返って

## － 実践力のある教員に育てる豊かなプログラム －

加藤 昌宏\*

### はじめに

筆者は2013年9月より本学の教職教育センターの教職指導員の職務を担当し、教員を志望する学生諸君が教員採用試験を突破して教壇に立つための指導・支援に取り組んだ。その際、自らの教職経験だけでなく、教員のメンタルヘルス支援業務の経験、民間企業の教員採用対策講座の講師としてのノウハウやスキルも活かすことで、効果的な指導・支援が可能になった(※1)。

また本学の非常勤講師として、2019年度の前期に「社会科教育法」を、2020年度の後期には「社会・地理歴史科教育法Ⅱ」を担当し、教職課程の正課の授業と教職指導員としての指導・支援を連動させることで学生諸君との信頼関係がより深まり、教員採用選考突破のための資質・能力の向上に相乗的な効果が得られることを実感した(※2)。

本稿では本学における教職指導員としての業務の一端について、教科教育法の講師としての指導経験も加味して述べることで、教員をめざす学生諸君に教員として必要な資質・能力の育成に資することができれば幸いである。

※1) 筆者は県立高校長退職後、2012年度は兵庫県教育委員会阪神教育事務所教職員課に所属し、臨床心理士や精神科医との連携により、メンタル面での障害を抱えた教員の職場復帰を支援する教職員復職推進員を勤めた。また2013年度より、中国・四国地区大学生協連合が主催する教員採用試験対策講座の講師として、広島大学、山口大学、愛媛大学、高知大学等で「人物試験対策」や「教職教養試験対策」を指導してきた。

※2) 筆者は2013年度以降、関西学院大学の非常勤講師として「地理歴史科教育法」「公民科教育法」「社会科教育法」を担当し、2022年度も半期単位で「地理歴史科教育法」を5講座、「公民科教育法」を4講座担当する。

### 1 教職指導員の多彩な業務

教職指導員の業務は、1. 初等中等教育概論(正規課程外)の講義、2. 教職希望学生の履修相談・面接指導・採用情報収集、3. 指導案作成及び模擬授業の指導、4. 卒業生新任教員の訪問・教育実習訪問指導等である。以下に筆者が担当した業務の一端を述べる。

#### 1) 相談・指導業務

自らの決断で教職教育センター(以後、「KTC」と表記)に来室する学生は、自分の将来に真摯に向き合った「優れた教員の候補生」である。2年生の教職課程履修者の主な相談内容を列挙すると、教職と民間企業等への就職の選択について、所属学部での学びと教職課程の両立について、教職課程の履修による過重負担の悩みについて、学校支援ボランティアや社会貢献活動への参加について、

---

\* 甲南大学教職教育センター教職指導員

学習塾等のアルバイトについて、教員採用試験対策の内容と開始時期についてなど多岐にわたるが、学生生活の在り方や将来に対する不安を訴える学生への進路相談・キャリア相談の色あいが濃い。

3年生では教科教育法を履修している学生が、学習指導案の作成や模擬授業の演示、板書の仕方など、教職の実践的な課題を抱えて来室することが多くなる。教職指導員としては教科教育法の指導のねらいや指導内容をふまえて、課題の克服を支援する役割が大きい。3年生は、2月中・下旬の「春期講座」での個人面接・集団討論・場面指導等の指導や「地理基礎講座」「歴史基礎講座」の受講を機に、本格的な受験対策を開始する学生が多い。

4年生の4月には教育実習に向けての事前指導が始まるが、各自治体の教員採用選考の要項・願書を入手しながら受験先を決定し、出願書類の作成を行う。出願書類に基づいて面接試験等が行われるため、志望理由書や自己PR文で受験生の「よさ」がアピールできるよう時間をかけて支援、指導する。[資料1]「出願書類作成のポイント」

## 2) 免許教科別指導(学年別)

2年生と3年生を対象にそれぞれ年間4回の授業、集団指導の機会があり、本年度は岡本先生が2年を、筆者が3年を担当した。スポットの授業であるが「社会・地歴・公民」の教員志望者が一堂に会する貴重な時間である。筆者は担当学年の第1回の授業で受講生全員に「導入アンケート」を提出させ、「診断的評価」資料として、KTCでの個別指導の際にも活用している。[資料2]「導入アンケート」

○2年生の教科別指導：職業選択は「生き方選び」であることを理解させ、教職への意欲を高めることに主眼を置く。アイスブレイク(※3)やアクティブラーニングを駆使してコミュニケーション力を育み、教員に求められる資質・能力を体験的に理解させるとともに、この機会を、教職をめざす受講者相互の仲間づくりの場と位置付けている。

魅力ある教員にふさわしい「マインド」や「スキル」、異世代とのコミュニケーション力等は一朝一夕で身につくものではなく、知っていてもわかっていても「できる」とは限らない。学業を主としつつ、学生自治組織や部活動・サークル活動に主体的に参加し、学校支援や社会貢献につながるボランティア活動、アルバイトなどにも挑戦して教員に求められる資質・能力を伸ばすよう促す。3、4年生では、こうした体験から得たものを教職に結び付けて語りあえるような展開にしたい。[資料3]「社会・地歴・公民科の教員をめざして」※3)「傾聴力トレーニング」、「ウソつき自己紹介」、「バースデーチェーン」、「はあって言うゲーム」「行ってみたい国は？」などのアクティビティをアレンジして利用した。

○3年生の教科別指導：導入では教育時事問題や教採情報を提示する。教職課程の社会・地歴・公民科教育法等の内容を補完しながら、広範で実践的な知識・技能を習得できるよう工夫した。

本年度の第1回は「これからの時代の教員に求められる資質・能力とは」で、基本資料は「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」(中央教育審議会答申、H27.12.21より抜粋)、と「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(中央教育審議会答申、H24.8.28より抜粋)の2つである。重要部分についての空欄補充のワークを課し、資料「各自治体が求める教師像」を参考にして志望先向けの「自己PR文」を作成させた。

第2回は「中等社会科の指導計画と学習評価」で、筆者作成の「年間指導計画」と「学習指導案」の様式を配布し、計画作成のための基礎知識を学習指導要領等に基づいて問うた。また学習評価については、「形成的評価」、「観点別評価」、「評価規準」、「目標に準拠した評価」、「指導と評価の一体化」、「PDCAサイクル」等の基本用語を把握させるため、まずは一人で考え、次にグループでの協働学習で理解を深めさせた。参考資料には「学習評価の在り方ハンドブック」(小・中学校編、高等学校編、H元年6月 文部科学省 国立教育政策研

究所)を用いた。

第3回では「兵庫県・中社・R3実施問題(抜粋)」を利用してグループ対抗の演習を行った。さらに「私のめざす授業」について各自に考えさせたいうで、グループ単位で模造紙を使ってラベルトークとKJ法により分類させ、完成した作品を使ってプレゼンテーションを行わせた。



来たる第4回(2月)は3年生として最後の教科別指導である。数か月後の教員採用試験に向けて本格的にスタートが切れる授業をめざす。今回の基本資料は『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(中教審答申)』(令和3年1月26日)である。急激に変化する時代の中で子供たちに育むべき資質・能力とその方策を、映像と解説で確認させたい。さらには「共通テストサンプル問題」の「歴史総合」を利用したグループ対抗の演習、「ICTを活用した学習」についての集団討論または場面指導(ロールプレイング)を構想中である。

とりわけ「ICT活用」については、GIGAスクール構想の「児童生徒への1人1台の端末」が小・中学校だけでなく高校でも達成されることにより、授業での「教師によるICT活用」とどまらず、「生徒によるICT活用」にも踏み込んだ授業の工夫が欠かせない。具体的には、一斉学習で教員がICTを活用して教材を提示するといった活動だけでなく、個別学習や協働学習において生徒自らがタブレットPCや電子黒板等を活用する場面にも誘導したい。

令和4年度の兵庫県の教員採用試験ではICTを

活用した模擬授業実施教科が拡大され、「中学校・特別支援学校(社会)」や「高等学校(地理歴史・公民)」においてもICTを活用した模擬授業が実施されることになった。「全ての教員がICTを活用し、児童生徒に個別最適化された授業実践を行うことが求められる中、ICT機器の活用を含めた授業実践力を評価するため」であり、「実施方法、内容については別途、連絡する」とのことなので、今後の詳細に注目するとともに、受験生への早期の指導を徹底したい。

### 3) 教員採用試験対策講座(春期講座、一次試験対策講座、二次試験対策講座)

春季講座(2月中・下旬)は3年で教員採用試験の受験予定者を対象に、「面接・場面指導・集団討論・小論文・模擬授業」等の指導が実施される。一次試験対策講座(6月下旬～7月中旬)は一次試験直前に同様の内容で実施され、受験自治体ごとに異なる対策を行う。二次対策講座(7月下旬～8月中・下旬)は一次試験合格者(見込み者を含む)を対象に受験自治体ごとに異なる対策を実施する。[資料4「集団討論評価シート」、5「模擬授業評価シート」]

### 4) 卒業生新任教員訪問

昨年はコロナ禍のため電話によるOB教員との会話にとどまったが、本年度は訪問時期を調整しながら、尼崎市と八尾市の中学校を訪問することができた。以前と同様にOB教員が笑顔で出迎えてくれるのがなによりうれしい。

校長にはまずは御礼を述べ、新任教員訪問の目的を説明すると納得される。KTC通信で本学の教員採用試験合格実績を紹介するときまって驚かれる。校長や本人との懇談ではメンタルヘルスが気にかかることもあった。新任教員のみならず、長時間勤務の実態は解消されてはならず、学校における働き方改革が進んでいるようには思えない。本学在学時代に築いた信頼関係があったとしても、校長同席のもとでは言えないこと、校長同席でなくとも言えないことがあるだろう。

校長からは、管理職や先輩教員と良好な人間関係が築かれていることを、さらには生徒や保護者にとって信頼できる教員として勤務していることを確認でき、校長にはあらためて御礼と支援をお願いした。帰り際にOB教員には相談事があれば連絡するように伝え、励ましのことをかけた。

## 5) 学校体験

筆者の担当分ではコロナ禍以前の「須磨翔風高校」体験、「御影高校」体験での訪問以来、実施できていないが、学生にとって教育実習以前に学校現場を体験する絶好の機会である。受け入れ校の尽力により豊富なプログラムが用意され、短期間であっても緊張感のなかで得ることが多くある。多くの中学校・高校に協力・連携いただけるのは本学の強みである。

## 6) 歴史基礎講座

2019年度より2月～3月に10回（2021年度は8回）の演習を実施している。教員採用試験（中学校社会、高校地歴、高校公民）をめざす3回生のうち、例年の申込者は10数名程度であるが歴史についての知識を吸収しようとする意欲が強く、自力でも教採一次試験の「専門科目」対策を計画し実践できる学生が多い。例年は「世界史」を主とし、「基本問題集」の問題の解答を予習として課した。授業では受講生相互が自らの解答を点検するアクティブラーニングを実施して、本時の各テーマの基本的事項の理解に重点を置くとともに、筆者が各テーマの意義や構成、流れをまとめた。

2021年度は次年度より始まる新科目「歴史総合」を意識した演習を予定している。17・18世紀以降の世界と日本を「近代化」「大衆化」「グローバル化」をキーワードにして関係づけ、近現代史の基本的知識の理解と近現代史学習への意欲を高めることに主眼をおきたい。また、アクティブラーニングによる演習を通して、「チーム社会科」として互いに励まし競い合うことが全員の夢実現につながるになると確信している。

## 2 教職指導員の業務と教科教育法等、教職科目のコアカリキュラムとの関連について

教職課程の各教科の指導法（教科教育法）の全体目標は「当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける」ことにある。担当教員はシラバスを作成し、授業等を実施する際に、学生が「コアカリキュラムの内容を修得できるように授業を設計し実施する」こととされており、情報通信技術やアクティブラーニングを取り入れることも含まれている。

一方、4年生の「教職実践演習」では、教員として求められる以下の4つの事項、すなわち、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科の指導力に関する事項が含まれている。

教員を採用する教育委員会等においては、コアカリキュラムの内容を踏まえた教員採用選考を実施することになっているが、教育実習の実施時期が教員採用試験（6月下旬～）の直前までであることが多いため、教育実習及び教員採用試験までの早い時期より、「教科教育法」はもとより、「教育実践演習」で求められている事項を含めた指導が欠かせない。本学の教職指導員はこうした日程を熟知し、来室した学生の個別の相談内容に対応するだけでなく、個別・集団の多様な取り組みを通して、教職に求められる広範な資質・能力の育成をフォローする役割を果たしている。

## [資料1]「出願書類作成のポイント」～願書は「筆記試験」である

### 1. 出願書類の目的を把握する～「願書」から選考が始まる

- (1) 願書は面接の基礎資料であると同時に評価材料の一つでもある。つまり「残るもの」である。
- (2) 願書の記載事項をもとに面接が行われる。書類に「縛られる」のではなく、「活かす」ために書く。
- (3) エントリーシートとは異なり選別のツールではないが、最後に書類が決め手になることもある。

### 2. 出願書類の記入項目でとくに重要なもの～「気軽に、安易に」書いてはいけない

- (1) 教職(校種, 教科・科目)志望動機・理由 ※後述「5」
- (2) 自治体(受験先)志望動機・理由 ※後述「6」
- (3) 自己PR・自己アピール ※後述「7」
- (4) ボランティア・社会活動経験 ※やらなかった理由、「やった経験から得たもの」が問われる
- (5) 長所・短所 ※短所は「ネガボ変換」で確認しておくこと
- (6) 最近読んだ本, 趣味・特技 ※面接では必ず突っ込まれると覚悟しておく

### 3. 作成上の基本的な留意点～「読み手への気配り」で好感度アップにつなげる

- (1) 加点的要素…入賞, 資格, 特殊な経験は必ず書く
- (2) オリジナリティ…経験や実績でオリジナリティ(自分らしさ)をアピールする
- (3) 「書けない」ところはどうするか…代替の経験・エピソードを示してよい場合がある
- (4) 客観的に見て疑問が生じる場所は, 簡潔な説明を加える  
例) 部活動歴が空欄→「じゃあ, 何をしていたの?」  
例) 履歴に空白がある, 大学に5年通っている→「なぜ空白期間があるの? その理由は?」  
・ 文章でただだらと書き込まず, 「見やすい」「わかりやすい」工夫をする  
→ キャッチコピー(端的な表現),マジックフレーズ(自分を表す象徴的な言葉), 強調(太字・下線)  
・ 指示は守る, そして裏読みする  
例) 「イラスト・絵を書いてもよい」→イラストや絵を使って見やすくまとめる  
例) 「箇条書きでも可」→結論先行の形で箇条書きとし, 各項目に補足説明を加える
- (5) 「納豆人間」要注意…「やらねば, やらねば」という書き方は不適切。ほんとうにできるの?
- (6) 「書く量は多い方がよい?」…読み手の立場なら?, 結局何が言いたいのか? 「思い」と「常識」
- (7) 「形式」よりも中身…項目立てするのはよいが, 中身が薄いと困る。分量のバランスも考えて。
- (8) 「ない」ものは出せない…「盛った話(作った話)」はばれる
- (9) 「背伸びし過ぎると天井に頭をぶつける」→自慢話はほどほどに, 半可通・知ったかぶりは×
- (10) 「嘘をつくこと」と「書かないこと」は違う→書かなくてよいことを書いては「いけない」

### 4. 文章力・文字力も「評価」のうち～文や字は「人」自身を表している

- (1) PREP法で書く。結論→補足説明・具体化。「○○です(である)」→「(その)理由は…」  
※PREP法=文章を「Point(結論)」「Reason(理由)」「Example(具体例)」「Point」の順に構成すること。
- (2) 語彙不足は評価を落とす…「難解な」「稚拙な」表現や, 誤解を受ける表現, 同じ表現のくり返し
- (3) 汚い字ほど内容への評価が厳しくなる…同じことを書いても, 「粗野」で「生意気」な印象
- (4) 字の大きさのバランスが悪すぎる…「子どもの字」みたい, 左利きの人は要注意
- (5) 略字, かながき→丁寧に伝えようとする意識が希薄

(6) 誤字や脱字→注意力・基礎学力不足, 教育関連語は致命的 (例)成績(積), 講義(議)、規準⇔基準

5. 教員志望動機・理由のポイント ※「めざす教員像」を活かし、教員として取り組むことを書く

(1) 志望動機から見えてくるもの

- ・教育観, 教職観…一般的な就労観よりも深まっていること, 「教育は人なり」(神戸市)である
- ・対人関係の人間力…健全さ, 明るさ, 前向きさ→人に関わる仕事であれば重要
- ・迷いのなさ, ひたむきさ…教職へのこだわり, 向上心

(2) 志望動機に必要なことは何か

- ・自己完結では終わらない, 開かれた志望動機である⇔ミーイズム(自分のことばかり)は×
  - ・その人自身が見える志望動機である⇔教職の職務内容を説明しているだけでは×
  - ・自分と教職の関わり, 自分と社会との関わりを考えることは必須
- 「働くこと」=人の役に立つ, 人を喜ばせる, 社会に貢献する⇔自分の力を活かして

6. 自治体志望動機・理由のポイント ※ふるさと愛を伝える、その自治体で取り組むことを書く

- (1) 自分がその自治体で働く意味を関連付ける…まず接点は何なのか, なぜここで働きたいのか
- (2) 自治体の特徴やイメージ, 教育施策を列挙する→その中から, 自分が使えるものをみつける
- (3) こだわりを明確にする→なぜそのことにこだわるのか, 明確な理由づけをする
- (4) 自分の教育理念や児童生徒観と関連付けられていると構成しやすい
- (5) どうしても難しいなら, 未来志向でまとめる

×自治体の施策にのみ言及→自分の教育観や取組みたいことと関連していることを示す

×自治体の外面的特徴のみ→「観光案内」みたい, そのことが自分とどんな関わりがあるの?

×「自分の出身地である」ことしか書いていない→それがどうしたの?

×人の温かさ, やさしさ, 自然環境, 食べ物がおいしい→日本全国どこでもそういえるのでは?

★キーワードは「課題の実践!」その自治体で働くことはあなたにとってどのような意味があるのか, どの施策・課題にどう取り組むのか, その自治体の子どもたちに何ができるのか, それに答える。

7. 自己PR・自己アピールのポイント ※たんなる自慢話にはうんざり、それが何の役に立つの?

- (1) 一般的には長所・スキル・特技・経験・志望動機の強さであるが…
- (2) 長所、短所、自分の特徴を列挙してみる→グルーピング→短所のうち致命的なものを消す
  - ・改善した短所はないか, 短所を長所に変える手もある ※「ネガボ変換」で調べる。
  - ・長所は、裏付けの経験を考えてみる→高校から大学時代までの経験を中心に振り返る
  - ・教育に直接役立つ経験、間接的に役立つであろう経験に分けてみるのもよい

※PR (パブリック・リレーションズ) とは、自身への理解や信頼を獲得する目的で行われる広報・宣伝・売込み

資料2]「導入アンケート」の質問項目 ※Q7、Q8の「誤答」が多い

[ ] 学部 [ ] 学科 [ ] 回生 番号[ ] 氏名[ ]

Q1 所属する学部等でのあなたの専門分野・研究テーマなど

Q2 所属クラブ・サークル、社会活動・ボランティア活動(学校関係は詳しく)、特技・趣味等

Q3 取得中(予定)の教員免許状 ○で囲むなどしてください

- [ 高校地歴 高校公民 中学校社会 高校商業 小学校 その他(具体的に… ) ]
- Q4 教育実習予定校(未定の場合は希望校) ※例.〇〇県〇〇立〇〇中学校、私立〇〇高校
- Q5 教員採用試験の受験希望(予定)先、校種、教科・科目等
- 第1志望[ ]府県市・私立[ ]学校 教科・科目等[ ] 未定の場合(理由 )
- Q6 教員になりたい「志望の強さ」は? 番号を○で囲むなどして下さい
- 1.「とても…」 2.「できれば…」 3.「それほど…」 4.わからない
- Q7 「地理歴史科」で履修した「科目」をすべてあげ、得意科目を○で囲むなどして下さい
- Q8 「公民科」で履修した「科目」をすべてあげ、得意科目には○で囲むなどして下さい
- Q9 最近の「教育」に関する出来事やニュースで、興味・関心があることをあげて下さい
- Q10 本時の感想や今後の受講にあたっての要望・質問などを自由に述べて下さい

### [資料3] レジュメ「社会・地理歴史・公民の教員をめざして～教職適性と自己改革」

1. 職業選択は「生き方選び」です～あなたの「よさ」が生かせる「しごと」ですか?

Q1 教職の「特徴・特性」は?…「教員」とはどんな職業か、簡潔に答えてみよう。

Q2 教員の「使命」とは? …「教員の使命」とはどんなことか、簡潔に答えてみよう。

Q3 教員の「適性」とは?…「教員に必要な資質」とはどんなことか、簡潔に答えてみよう。

WORK 「教職適性Q&A」 面接試験での問答のように、直感ですばやく回答して下さい。

#### [基礎編]

- ① 子どもが好きですか ( はい いいえ )
- ② 教えるのが好きですか ( はい いいえ )
- ③ 学ぶことが好きですか ( はい いいえ )
- ④ 子どもの立場で考えることができますか ( はい いいえ )
- ⑤ 健康ですか ( はい いいえ )
- ⑥ 我慢強いですか ( はい いいえ )
- ⑦ 明るくはきはきと挨拶ができますか ( はい いいえ )
- ⑧ 素直に謝ることができますか ( はい いいえ )
- ⑨ 人のよさを見つけることが得意ですか ( はい いいえ )
- ⑩ 人のために役立ちたいと思いますか ( はい いいえ )

採点方法:「はい」は1点、「どちらでもない」は0点、「いいえ」は-1点で合算 計 点

課題1 (1) あなたの得点は? (2) 得点についての感想を簡潔に述べてください。

A. 一般的には「得点が高い」方が向いている。「高い」と「やりがいのある仕事」になりそう。

#### [発展編]

- ① 大人と話をするよりも子どもと話をするほうが好きだ ( はい いいえ )
- ② 小さなことは気にならないおらかさが長所である ( はい いいえ )
- ③ 何かと傷つきやすいデリケートで繊細な性格である ( はい いいえ )
- ④ 人を褒めるよりも欠点を的確に指摘することが得意である ( はい いいえ )
- ⑤ どんな場合でも自分の意見を通す芯の強さを持っている ( はい いいえ )
- ⑥ 聞き役に回るのは苦手で、「話し上手」の方だと思う ( はい いいえ )
- ⑦ 他人に同調するよりも、「一匹狼」に近いタイプである ( はい いいえ )

- ⑧ 情熱的で感動しやすく、感情が言動や顔に出やすい ( はい いいえ )  
 ⑨ 我慢するのが苦手、我慢するくらいなら状況を変えたい ( はい いいえ )  
 ⑩ 仕事のためならプライベートを犠牲にしても気にならない ( はい いいえ )

採点方法：「はい」は1点、「どちらでもない」は0点、「いいえ」は-1点で合算 計 点

課題2 (1) あなたの得点は？ (2) 得点についての感想を簡潔に述べてください。

A. 一般的には「得点が高い」と要注意である。「対人関係等でのトラブルで悩む」可能性が高い。

2. 「自己理解」から「自己変革」へ 出典:kei塾「人物評価試験対策TEXT」

WORK 交流分析と「エゴグラム」 …別紙資料(省略)により、「自己理解」を深めよう

課題3 (1) あなたの「優位要素タイプ」は5タイプ(CP, NP, A, FC, AC)のうちのどれでしたか？

(2) そのタイプの「解説」を参考にして、感想や考えたことを簡潔に述べてください。

A. 教員に多いのは「NP」。「子どもを大切に思う気持ちがあれば」他のタイプの教員もぜひ必要。

3. あなたの「教員志望理由」と「めざす教員像」は？ …今の思いを簡潔に答えてみよう

Q1 なぜ教員になりたいのか？ (なぜ中学校or高校なのか？ なぜ〇〇科なのか？)

Q2 どんな教員をめざすのか？ (それはなぜか？)

4. いま、学校が求める教員は？ …今後の指導や授業でも問い続けます

(1) 子どもへの「教育的愛情」にあふれた教員 …どんな教員か、具体例をあげよう。

(2) 実践的指導力、専門性に富む教員…どんな教員か、具体例をあげよう。

Q1 「生徒指導」の目的は？…「自己指導能力」という言葉を使って簡潔に答えてみよう。

Q2 どんな授業をめざすか？…「社会・地歴・公民」科教員として簡潔に答えてみよう。

Q3 どんな学級をめざすか？…「学級担任」の立場で簡潔に答えてみよう。

(3) 「チーム学校」の一員として、協働できる教員…こうした教員が求められているのはなぜか？

(4) 向上心が豊かで、「学び続ける」教員 …自分事としてどう取組むか具体的に答えてみよう。

5. 社会・地歴・公民科の教員をめざすのなら

(1) 学校・子ども・教師・保護者を「共感的に」理解する。

…ボランティア体験などにより、「児童生徒の心情」や「教師や親の願い」を理解しよう

(2) 社会・地歴・公民科の各科目の基本的事項の学習を「計画的に」実行する。

…〇〇(科目等)は「〇〇を使って」、「いつまでに」とやると決めて実行しよう

(3) 教育や社会に関するニュースなど、日常の時事問題に関心を持つ。

…今日の学校教育や社会の実態・課題を理解し、自分なりの考えを持つ

課題4 本時の「まとめ」として、次の文の空欄(ア)・(イ)に入る語句を答えよ。

◎「過去と他人は変えられないが、(ア 自分[未来])と(イ 未来[自分])は変えられる」

[WORK] 次の観点で模擬討論での自分のあり方を評価し、「改善すべき点」などを考察しよう。

| 観 点   | 内 容                          | / 評価 A：大変よい B：よい C：普通 D：課題あり |
|-------|------------------------------|------------------------------|
| 協 調 性 | 周囲と協力して議論を行おうとしている           | A・B・C・D                      |
| 主 導 性 | 議論をまとめる・議論を進める               | A・B・C・D                      |
| 積 極 性 | 討論へ参加する姿勢                    | A・B・C・D                      |
| 表 現 力 | わかりやすい話し方・印象                 | A・B・C・D                      |
| 考 察 力 | 課題に対する問題意識がある、教師の視点から考察している  | A・B・C・D                      |
| 判 断 力 | 課題を的確に捉え、討論の流れに沿って建設的な意見が出せる | A・B・C・D                      |
| 社会常識  | 社会人として常識的な対応ができています          | A・B・C・D                      |

■テーマA 「いま求められている教員とはどのような教員でしょうか。最初に一人一人が挙手をして、順々に、あなたがめざす教師像について自分の考えを述べたあとで、話し合ってください。」

[改善すべき点、振り返りなど、メモ]

■テーマB 「いま求められている授業とはどのような授業でしょうか。○（記号）の方から順に、あなたがめざす授業について自分の考えを述べたあとで、話し合ってください。」

[改善すべき点、振り返りなど、メモ]

[参考]兵庫県：「集団面接試験の評定」「次の評定項目に基づいて3段階評定で実施します」

- (1)健康度…困難を克服する精神力や健康性に関する評価
- (2)積極性…仕事に対する意欲や情熱に関する評価
- (3)共感性…児童生徒に対する共感性に関する評価
- (4)社会性…周囲とのコミュニケーション能力に関する評価

[資料5] 「模擬授業」評価シート ※15分程度で演示した場合

模擬授業 評価シート 評価担当者[ ]→授業担当者[ ]

A:とてもよい B:よい C:「よい」とまではいけない D:よくない(できていない)

1 教員のコミュニケーション力、「アクティブ・ラーニング」等の工夫

(1) 教師と生徒の間で双方向のコミュニケーションが成立していたか

評価 A B C D メモ…

(2) 生徒同士の「学びあい(協働)」や「ICT活用」の工夫があったか

評価 A B C D メモ…

2 教材や指導内容の適切性、教材研究の深さ、学習指導案との整合性など

➡この項目は可能な範囲で評価して下さい。

(1) 「本時の目標(ねらい)」を示せたか、「目標に向かう」授業になっていたか

評価 A B C D メモ…

(2) 「導入」で生徒の関心を引き付けたか、展開につながる「導入」であったか

評価 A B C D メモ…

(3) 「展開」まで達していたか、「展開」の内容や説明は適切だったか

評価 A B C D メモ…

3 指導技術(スキル)の適切性

(1) 姿勢・態度、立ち位置、視線、表情、ジェスチャー(しぐさ)は適切だったか

評価 A B C D メモ…

(2) 発声・話法は適切だったか(音量、明瞭さ、速さ、抑揚、語尾、間[ま]、言葉遣い)

評価 A B C D メモ…

(3) 発問の工夫、回答へのフォロー、活動や作業の指示、机間指導は適切だったか

評価 A B C D メモ…

(4) 板書は適切だったか(字の正確さ・大きさ、レイアウト・ヴィジュアル、色チョーク)

評価 A B C D メモ…

【総合判定】 評価 A B C D メモ…

コメント(とくに改善すべき項目・内容・理由、よかった項目・内容・理由などを、具体的に書く)

※「相互評価」は、授業者の授業力を伸ばすために行う。評価者自身の授業力が問われる。

※「自己評価」は自らの課題や弱点を見つけ、よりよい授業に向けて改善するために行う